

芸劇 eyes ニッポンの河川 「大きなものを破壊命令」

3月1日(土)~9日(日) シアターイースト

詳細はP13へ



左上:佐藤真弓 右上:峯村リエ  
左下:光瀬指絵 右下:中林 舞

作・演出:福原充則  
出演:峯村リエ、佐藤真弓、中林 舞、光瀬指絵

主催:ニッポンの河川  
提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
制作協力:アラクマックス&エンタテインメント

4人の女優が数十人を演じ、照明と音響も担当?!

熊谷に現れた連続殺人犯“首絞めジャック”を倒すべく少年が立ち上がり、ジャングルでは四姉妹の脱走兵が……。得体の知れない“大きな力”に対峙する人々を、ナンセンスな笑いを交えて軽妙に描き、こまばアゴラ劇場「サマーフェスティバル(汎-PAN-)2011」で話題となった作品が、2年7ヶ月を経て再演される。すべてをなぎ倒し、あらゆるものを破壊した、あの地震からちょうど3年というタイミングで。

2006年旗揚げのニッポンの河川は、役者の森谷ふみと光瀬指絵、脚本・演出の福原充則によるユニット。ピチチ5(クインテット)主宰でもあり、別の名前も持ち複数のユニットで活動する福原は、宮崎あおい主演の『その夜明け、嘘。』が第54回岸田國土戯曲賞最終候補作品にノミネートされるなど、いま最も期待されている若手劇作家のひとりである。

舞台だけでなく、田辺誠一主演のTVドラマ『三代目明智小五郎』など、TVと映画でも数多くの脚本を担当。さらに、初監督作品となる映画『キング・オブ・心中』も控えている。

キャストは、前回も出演した光瀬とナイロン100°Cの峯村リエに、猫のホテルの佐藤真弓と振付師でもある中林舞が加わる。4人の女優たちが数十人の濃いキャラクターを演じ分け、さらに音響と照明も担当。演じながら足踏みスイッチで手作り照明を、手持ちの機材で音響も操り、ミニマムなキャスト&スタッフでアナログな作業をこなしつつ、壮大な物語を紡ぎ出す。破天荒なストーリーラインと疾走するグルーヴ感、鮮やかにキャラの切り替えをこなす女優陣の力量にも目を見張る。著名な演劇人たちも注目のニッポンの河川を未経験の人は、この機会にぜひ。

芸劇 eyes サンプル 「シフト」

3月13日(木)~23日(日) シアターイースト

詳細はP14へ



『永い遠足』より

作・演出:松井周  
出演:古屋隆太、奥田洋平(以上サンプル・青年団)  
野津あおい(サンプル)  
兵藤公美(青年団)  
黒宮万理(少年王者館)  
武谷公雄  
市原佐都子(Q)



©岩村英佳 松井 周

松井周主宰のサンプル旗揚げ公演、待望の再演

物語の舞台は過疎化が進む地方の山村。若く美しい妻みすずとの新婚生活を夢見て都会から婿入りした吉田は、妻の親族たちに常軌を逸した行為を強要されて戸惑う。高貴な血筋だと自ら語る彼らは、“神”の出現を待ち望んでいた……。

平田オリザ主宰の劇団青年団に俳優として入団後、作家及び演出家としての活動もスタートした松井周が、若手自主企画公演を経て、2007年に青年団内ユニットとして立ち上げた劇団サンプル。こまばアゴラ劇場「冬のサミット2006」で上演された記念すべき旗揚げ公演が、古屋隆太を除くキャストを一新して待望の再演となる。新たに加わったキャストには、気鋭の劇作家で劇団Q主宰の市原佐都子も。

土着の奇妙な因習に縛られた村人たちと、その中に異物として存在し、翻弄されるよそ者。痛烈なブラックユーモアと風刺を巧みに

織り交ぜつつ浮き彫りにされるのは、虚実のあわいから抽出された人間の一例(サンプル)だ。フランス語にも翻訳され、マルセイユの国際芸術祭「actOral.06」でも上演された。空間と物語を結びつける、大胆でユニークな装置にも注目を。

松井は08年の『家族の肖像』と09年の『あの人の世界』で続けて岸田國土戯曲賞ノミネート、そして10年の『自慢の息子』で同賞を受賞。今後の演劇界を牽引していく旗手であることは誰もが認めるところ。「フェスティバル/トーキョー」の常連でもあり、2013年11月に上演された新作『永い遠足』も高く評価されたばかり。『シフト』の後の『カロリー消費』で青年団から独立し、正式にサンプル主宰として歩み始めた松井の才能が遺憾なく発揮された本作は、初演から7年を経た今、どんな転換(シフト)を見せてくれるだろうか。

主催:サンプル、quinada  
提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
助成:アーツカウンシル東京、芸術文化振興基金

勅使川原三郎ディレクション U18 ダンスワークショップ・プロジェクト デモンストレーション公演「今、何してるの?」

1月13日(月・祝)18:00開演 シアターイースト

詳細はP9へ



監修・演出:勅使川原三郎  
出演:U18ダンスワークショップ・プロジェクト参加者

18歳以下の青少年少女に向けたワークショップ半年の成果がここに

U18ダンスワークショップは、東京芸術劇場と勅使川原三郎が2012年度から継続してきたプロジェクト。18歳以下の若者たちを対象に、自分の呼吸と身体との関係を基礎に無限の可能性を探求することをねらいとし、今年は8月から、13名の参加者が勅使川原三郎のダンス・メソッドを体験してきた。学ぶのはダンスのテクニックではなく、表現する以前の身体を観察する方法。「いっぱい呼吸して、吐きながら自分の身体を床に溶かして」「目に力を入れすぎ

ないで」「思い切って、ボールを落つことすように」青少年少女たちは、講師の言葉を吸い込み、考え、身体に伝えることを繰り返す。深い呼吸とともに感覚が研ぎ澄まされていくなかで、緩められた身体を通して新しい発見や気づきを繰り返し積み重ねていく。半年のワークショップの成果を見せる1月のデモンストレーション公演では、瑞々しく若いエネルギーが舞台を埋めつくすことだろう。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
企画制作:東京芸術劇場/KARAS  
助成:平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

芸術+トーク 朗読「東京」

1月15日(水)~17日(金)・2月7日(金)~9日(日) シアターイースト

詳細はP9・P12へ

“東京”の魅力が芸劇から発信!

“東京”をテーマにした新リーディング企画。“東京”を描く短編、戯曲、エッセイなど様々な作品に描かれた“東京”を俳優が朗読し、読後トークで自分の“東京”を語る。“東京”で生まれ育った人にとってのわが街“東京”、外から来て東京に暮らす人にとってのわが街“東京”。それぞれの距離感で語られる“東京”と、読まれる物語から、この街のさまざまな顔が浮かびあがってくるのではないのでしょうか。演出家には、毛皮族の江本純子、猫のホテルの千葉雅子、tsumazuki no ishiの寺十吾、映像ディレクターの瀬田なつきを迎えます。小劇場演劇で活躍する演出家から映画やテレビなど映像の分野で活躍する演出家まで幅広い顔ぶれが揃いました。“東京”のどのような表情を取り上げるのか、ご期待ください。出演者など詳細が決定しましたら、ホームページで発表いたします。お楽しみに!

ルの千葉雅子、tsumazuki no ishiの寺十吾、映像ディレクターの瀬田なつきを迎えます。小劇場演劇で活躍する演出家から映画やテレビなど映像の分野で活躍する演出家まで幅広い顔ぶれが揃いました。“東京”のどのような表情を取り上げるのか、ご期待ください。出演者など詳細が決定しましたら、ホームページで発表いたします。お楽しみに!



主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区  
助成:平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアティブ

芸術+トーク 異世代作家リーディング「自作自演」

<第8回>1月18日(土)14:00開演・<第9回>2月4日(火)19:00開演 シアターイースト

詳細はP9・P11へ



高橋源一郎×藤田貴大



保坂和志×岡田利規

世代の異なる作家が自作を読み、語り合う。

2011年より不定期に開催している『自作自演』。2人の異世代作家が自作を読み、読後のトークを行う2部構成でお届けしています。作家が、自らの小説や戯曲、エッセイなどを自らの声で朗読する。作家自身の朗読だからこそ、作品本来がもつ魅力を充分に感じる事が出来る。トークでは互いの創作への想いや2人の意外な接点など、貴重な話が聞ける贅沢なひととき。こんなにも作家の世界観をかいま見ることが出来る機会には、なかなか

か出会えないでしょう。11月に一足先に開催された、大人計画の松尾スズキとハイバイの岩井秀人ペア。多くのお客様にご来場頂き、会場は終始笑いが絶えず大盛況のうちに終了しました。次回は1月に作家 高橋源一郎とマームとジブシーの藤田貴大、そして2月には作家 保坂和志とチェルフィッチュの岡田利規と、注目の異世代ペアが続きます。彼らがどの自作を読み、どんなトークが展開されるのか、ご期待ください。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)